2024.1.24 紙飛行機遊びから② ～年度をまたいで発揮されること、異学年の関わりだからできること～

年中さん中心に紙飛行機遊びをしていた日の翌々日の朝、好きな遊びの時間が始まってすぐの頃、玄関のガラス扉から外を眺めながら過ごしている二人の年長さんの姿を見かけました。まだ登園してきていない友達が来ないかと待っているようです。玄関前の廊下には、この前の紙飛行機遊びの時のビニールテープが貼ったままになっていたので、「紙飛行機飛ばしをやってみる？」と声をかけると、二人とも「する！」と言いました。やりたい時にすぐできたらいいなと思って、この前から玄関の靴箱の上の端に、ビニールテープと数枚の折り紙を置いたままにしていました。、二人は迷いなく折り紙で紙飛行機を折り始めました。二人とも違う形の紙飛行機です。作った紙飛行機を飛ばし、着地したところにそれぞれの名前を書いたビニールテープを貼り、自己新記録に挑戦していました。

すると、そこに、年長のＧくんが登園してきました。玄関から中に入ると、「紙飛行機やりたい」と言って、登園リュックをかついだまま紙飛行機を折り始めました。年長さんは、昨年度の年中児の時、紙飛行機遊びがブームになった時があり、Ｇ くんも、最初の二人とは違う形の紙飛行機を折っていました。それぞれにお気に入りの紙飛行機があるようです。作った紙飛行機を一度飛ばし終わったＧくんに、一旦お部屋に行って朝の準備をしてくるように促し、戻ってきたＧくんと私の４人で紙飛行機飛ばしをしていると、今度はＨくんが登園してきました。Ｈくんも紙飛行機をしたいと言って、すぐに保育室で朝の準備を終えて廊下に戻ってきました。そこに、この前紙飛行機飛ばしをしていた年中さんの何人かが加わり、順番に紙飛行機を飛ばします。しばらくすると、ＧくんとＨくんは、どちらが遠くに飛ばせるか、飛ばす順番が来るたびに競争をして、「勝った」「負けた」と楽しむようになりました。

いつの間にか加わっていた年長のＩさんは、一度飛ばした後に、必ず自分の飛行機を見直して、飛行機の先の折ってあるところの長さを変えたり翼の角度を見たりして、どんどん自己ベストを更新していきます。

そこに、年長のＪくんが、今やっている子たちの紙飛行機とはまた違う形の紙飛行機を折ってやってきました。その飛行機はとても遠くまで飛んで、この前の年中のＢくんの最高記録を超えました。ちょうどそこに、遊戯室で遊んでいた年中のＢくんが出てきて廊下を通り、自分より遠く飛ばせたＪくんの名前のビニールテープを見つけ、「ぼくもやる」と加わりました。この前やっていた時は、Ｂくんより遠くに飛ばせる子も、Ｂくんの記録に近いところまで飛ばせる子もいなかったのですが、今回は、年長のＪくんの記録にやる気スイッチが入ったようです。手の動きを大きくしたり助走をつけたりして遠くに飛ばしたいと何度も飛ばして、とうとうＪくんとほぼ同じ距離まで飛ばすことができました。

その日は、年少のＫくんとＬくんも紙飛行機を飛ばしたいと列に並ぶようになりました。Ｋくんは、Ｂくんが持っている紙飛行機がほしいと言ったのですが、Ｂくんは持っている３つの飛行機の中でも、よく飛ぶ金色の紙飛行機を欲しいと言われたので、Ｋ くんにあげることはできません。どうするかなと見ていると、Ｂくんは、Ｋくんのために紙飛行機を折ってあげました。Ｂくんは、この前Ａちゃんに折ってもらっていたけれど、紙飛行機飛ばしをしているうちに、黄色、ピンク、金色と三つの紙飛行機を作っていて、紙飛行機をさっと作れるようになっていました。作ってもらったＫくんはとても嬉しそうです。Ｋ くんもＬ くんも紙飛行機を飛ばそうと構える姿はなかなか様になっています。何度も上の子たちの飛ばす様子を見ていたことが、よい影響になっているのかもしれません。異年齢での遊びになり、「並んで

いたのに横入りされた」と訴えてくる子もおらず、同年齢だけで遊んでいる時より、我を出しすぎず遊んでいる感じがします。上の子に憧れ、下の子を思いやり、お互いにいい距離感で一緒にやっている姿に、小さな社会を感じました。

　その次の日、いろいろな仕事があって園のあちこちに行っていた私に、園庭で会ったAちゃんが「紙飛行機をしたいと思ってたのに、先生がいなかったからできなかったよ」と言われました。「そうだったんだね。また一緒にしようね」と答えながら、子供の「好き」がそんなに強い遊びでないと子供だけでは続かないのかもしれないな、遊びにある程度の流れができるまでは保育者が伴走する必要があることもあるな、無理に続くようにしようと思わず経験が次の種になったと思えばいいのかな、等、いろいろな考えが頭に浮かびました。学びの連続です。